

坂出市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果からの傾向と課題

問1 家族や生活状況について

	結果の概要	傾向と課題
65P	(1) 家族構成について ・前回調査時と比較した際に、一般高齢者は17.0%から18.2%、要支援認定者も34.4%から36.6%と1人暮らしの割合がともに増加している。	・1人暮らしが増加しており、見守りが必要になる高齢者の増加 ○1人暮らしの高齢者に対する見守り支援等の拡充
66P	(2) 介護・介助の状況について ・「普段の生活における介護・介助の必要性」について、一般高齢者では「必要ない」が88.7%と大半を占めているが、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が6.8%となっている。 ・要支援認定者では、「何らかの介護を受けている」が59.9%と最も多く、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が19.5%と前回の調査より微増している。	○市民が必要な時に必要な支援を受けられる体制づくり
67P 68P	(3) 介護・介助が必要となった主な原因 ・一般高齢者では、「骨折・転倒」の割合が19.9%で最も高く、次いで「高齢による衰弱」の割合が17.5%、「関節の病気(リウマチ等)」の割合が14.0%となっている。 ・要支援認定者では、「骨折・転倒」の割合が29.6%で最も高く、次いで「高齢者による衰弱」の割合が22.7%、心臓病の割合が14.8%となっている。 ・前回の調査では、一般高齢者は、「高齢による衰弱」が18.7%と最も多く、次いで「骨折・転倒」が14.2%、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」が12.7%となっている。 ・前回の調査では、要支援認定者は、「骨	・一般高齢者において前回の調査と比較すると、「認知症(アルツハイマー病)」の増加率が他の原因より大きい。 ・一般高齢者、要支援認定者ともに介護が必要になった原因に「転倒・骨折」が上位となり、ついで「高齢による衰弱」となっている。 ○転倒予防に着目した介護予防事業の強化 ○軽度認知症(MCI)を含めた認知症予防に関する知識の普及啓発 ○糖尿病を含めた生活習慣病予防に対する関係機関との連携

	<p>折・転倒」が28.1%と最も多く、次いで「高齢による衰弱」が23.4%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」「関節の病気（リウマチ等）」がともに12.9%となっている。</p> <p>・一般高齢者では、前回の調査と比較すると、認知症（アルツハイマー病等）が6.3ポイント増加している。</p> <p>・糖尿病が、前回の調査と変わらず、一般高齢者・要支援認定者ともに高くなっている。</p>	
--	--	--

問2 からだを動かすことについて

	結果の概要	傾向と課題
72P ↳ 74P	<p>(1) 運動器の機能について</p> <p>・一般高齢者では、運動器の機能について「階段を手すり等を使用せずにのぼれるか」「椅子に座った状態から立ち上がれるか」「15分位続けて歩いていけるか」の3つの質問全てにおいて、「できるし、している」の割合が約6～7割と最も高くなっており、3つの質問の中でも「階段や手すりを伝わらずに昇ることができるし、している」の割合が、58.8%とほかの運動に比べて低く、「できない」は17.7%で高い。</p> <p>・一般高齢者と要支援認定者を比較すると、3つの質問で、4倍～7倍「できない」の項目が増えている。</p>	<p>・一般高齢者から要支援認定者になると下肢筋力の低下により、できないことが増えるため、下半身の筋力の向上が必要である。</p> <p>○介護予防における運動器の機能向上や持久力の強化</p>
75P 76P	<p>(2) 転倒について</p> <p>・一般高齢者では、転倒経験が「1度ある」が前回の調査と比較して、微増しており、「何度もある」と合わせると34.6%になる。</p> <p>・要支援認定者では、「何度もある」と「1度ある」を合わせると、64.6%となる。</p> <p>・一般高齢者では、転倒への不安に対し、</p>	<p>・一般高齢者、要支援認定者ともに、転倒への不安が高い。</p> <p>○転倒経験者の増加や転倒への不安に対し、転倒予防を目的とし介護予防事業の強化</p>

	<p>「とても不安である」「やや不安である」がともに微増しており、合わせると51.4%となる。</p> <p>・要支援認定者では、転倒への不安に対し、「とても不安である」「やや不安である」を合わせると、92.7%が転倒への不安を感じている。</p>	
77P 81P 85P	<p>(3) 閉じこもり傾向について</p> <p>・一般高齢者では、1週間あたりの外出回数についてたずねたところ、「週5回以上」が43.9%と最も多く、「ほとんど外出しない」「週1回」を合わせると14.2%となる。</p> <p>・要支援認定者では、「週2～4回」が41.3%と最も多く、「ほとんど外出しない」が微増しており、「週1回」を合わせると48.9%となる。</p> <p>・一般高齢者では、昨年と比較した外出回数についてたずねたところ、「減っている」が微増しており、「とても減っている」と合わせると28.3%となる。</p> <p>・要支援認定者では、「とても減っている」と「減っている」を合わせると67.5%となる。</p> <p>・一般高齢者では、外出を控えているかをたずねたところ、「いいえ」が69.7%と最も多いが、「はい」が前回の調査と比較すると8.3ポイント増加している。</p> <p>・要支援認定者では、「はい」が71.4%となっている。</p> <p>・一般高齢者では、外出を控えている理由をたずねたところ、「その他」が41.4%と多く、次いで「足腰などの痛み」37.8%となる。</p> <p>・要支援認定者では、「足腰などの痛み」が67.3%と最も多く、次いで「トイレの心配(心配など)」29.2%、「交通手段がな</p>	<p>・一般高齢者では、外出を控えている理由を尋ねたところ、「その他」が多く、コロナ感染症の影響が大きいと考えられる。</p> <p>・一般高齢者、要支援認定者ともに外出を控えている原因として「足腰の痛み」が多い。</p> <p>○閉じこもりの原因に着目して支援体制の整備</p>

	<p>い」27.8%となる。</p> <p>・要支援認定者では、外出する際困ることや不安なことをたずねたところ、「道路などに階段や段差が多い」が39.9%と最も多く、次いで「自宅から駅・バス停までが遠い」26.1%となる。</p>	
--	---	--

問3 食べることについて

	結果の概要	傾向と課題
87P 89P 90P 93P	<p>(1) 口腔機能について</p> <p>・「固いものが食べにくくなったか」、「お茶や汁物等でむせることがあるか」、「口の渴きが気になるか」の3つの質問において、一般高齢者では、約3割、要支援認定者では、約5割のかたが「はい」と回答している。</p> <p>・「歯磨きを毎日しているか」、「毎日入れ歯の手入れをしているか」の2つの質問において、一般高齢者と要支援認定者ともに、8割以上が「はい」と回答している。</p>	<p>・一般高齢者でも約3割がオーラルフレイルの状態になっており、口腔機能向上のための知識の普及が必要である。</p> <p>○オーラルフレイルについての予防啓発</p>
94P 95P	<p>(2) 食事について</p> <p>・6か月間で2～3kg以上の体重減少の質問において、前回の調査と比較し、要支援認定者では、「はい」が微増しており、21.1%となっている。</p> <p>・一般高齢者では、誰かと食事をともにする機会の有無についてたずねたところ、「毎日ある」が59.4%となっている。</p> <p>・要支援認定者では、「毎日ある」が41.4%となっている。</p>	<p>・低栄養の影響で、フレイルになる可能性がある方が約2割である。</p> <p>○低栄養に対する対策</p>

問4 毎日の生活について

	結果の概要	傾向と課題
97P 99P	<p>(1) 認知機能について</p> <p>・一般高齢者では、物忘れが多いと感じ</p>	<p>・一般高齢者では約4割、要支援認定者では、約6割の人が、認知機能の低下を感じ</p>

<p>114P 115P</p>	<p>ているか尋ねたところ、「はい」が42.7%となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要支援認定者では、「はい」が64.3%となっている。 ・一般高齢者では、今日が何月何日かわからない時があるか尋ねたところ、「はい」が25.4%となっている。 ・要支援認定者では、「はい」が48.2%となっている。 ・一般高齢者では、「その日の活動を自分で判断できるか」、「人に自分の考えをうまく伝えられるか」の2つの質問項目において、8~9割が伝えられるとなっている。 ・要支援認定者では、2つの質問項目において、「いくらか困難である」が約4割となっている。 	<p>ている。</p> <p>○認知症予防</p>
<p>100P 105P</p>	<p>(2) IADL (手段的日常生活動作) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「1人で外出しているか」、「食品・日用品の買い物をしているか」、「食事の用意」、「請求書の支払い」、「預金の出し入れ」、「年金などの書類が書けるか」の5つの質問項目で、「できるし、している」が約7~9割となっている。 ・要支援認定者では、「食品・日用品の買い物をしているか」、「食事の用意」、「請求書の支払い」、「預金の出し入れ」の3つの質問項目で、「できない」が約2~3割となっており、1人で外出しているか、年金などの書類が書けるかの、2つの質問項目で、「できない」が約4~5割になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援認定者は、日常生活において、何らかの支援が必要である。 <p>○要支援認定者への日常生活の支援</p>
<p>109P 110P</p>	<p>(3) 社会参加 (社会的役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友人の家を訪ねているか尋ねたところ、一般高齢者では、「いいえ」が46.8%、要 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会交流は、介護予防になるが、自分から積極的な声かけはできていない。 <p>○社会参加が介護予防につながることへ</p>

	<p>支援認定者では、76.1%となっている。</p> <p>・若い人に自分から話しかけることはあるか尋ねたところ、一般高齢者では、「いいえ」が32.6%、要支援認定者では、47.4%となっている。</p> <p>・前回の調査と比較すると、若い人に自分から話しかけることはあるかの質問項目で、「いいえ」が一般高齢者では10.1%、要支援認定者では、7.4ポイント増加している。</p>	<p>の理解の促進</p> <p>○要支援認定者も含めた地域活動参加への体制づくり</p>
111P	<p>(4) 趣味について</p> <p>・一般高齢者では、「趣味が思いつかない」が28.2%となっている。</p> <p>・要支援認定者では、「趣味が思いつかない」が49.8%となっている。</p>	<p>○趣味や生きがいづくりの重要性の普及啓発</p>
112P	<p>(5) 生きがいについて</p> <p>・一般高齢者では、「生きがいが思いつかない」が24.3%となっている。</p> <p>・要支援認定者では、「生きがいが思いつかない」が43.8%となっている。</p>	<p>○一般高齢者、要支援認定者が担える役割づくり</p>

問5 地域での活動について

	結果の概要	傾向と課題
116P ↳ 118P	<p>(1) 社会参加の状況について</p> <p>・社会参加の頻度について、一般高齢者では、「参加していない」「無回答」が⑦町内会・自治会以外の項目では、約7割を超えており、「町内会・自治会」43%、「収入のある仕事」26.2%、「趣味関係のグループ」24.2%の順で多くなっている。</p> <p>・要支援認定者では、すべての項目で、「参加していない」「無回答」が、9割以上を占めている。</p>	<p>・社会参加への困難さがある</p> <p>○社会参加が介護予防につながることへの理解の促進</p>
120P	<p>(2) 地域づくりへの参加意向(参加者)</p> <p>・参加意向について、一般高齢者では、</p>	<p>・一般高齢者では、地域づくりへの参加への意欲があったが、要支援認定者は、参加</p>

	<p>「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」が約6割となっている。</p> <p>・要支援認定者では、「参加したくない」「無回答」が約6割となっている。</p>	<p>への意欲が低い。</p> <p>○要支援認定者も含めた地域活動参加への体制づくり</p> <p>○社会参加が介護予防につながることへの理解の促進</p>
I21P	<p>(3) 地域づくりへの参加意向(企画・運営)</p> <p>・参加意向について、一般高齢者では、「参加したくない」「無回答」が約6割となっている。</p> <p>・要支援認定者では、「参加したくない」「無回答」が約8割となっている。</p>	<p>・一般高齢者、要支援認定者ともに、企画運営など、主体的な活動に対しては、困難さを感じている人が多い。</p> <p>○地域づくり活動担い手の養成</p>

問6 たすけあいについて

	結果の概要	傾向と課題
I22P I25P	<p>(1) たすけあいについて</p> <p>・心配事や愚痴を聞いてくれる相手、病気で数日寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人について、一般高齢者では、「配偶者」が最も多く、5割を超えている。</p> <p>・要支援認定者では、「別居の子ども」が最も多く、2つの項目で4割を超えている。</p> <p>・心配事や愚痴を聞いてあげる相手について、病気で数日寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人について、一般高齢者では、「配偶者」が最も多いが、前回調査と比較すると「そのような人はいない」が増えている。</p> <p>・心配事や愚痴を聞いてあげる相手について、要支援認定者では、「友人」が最も多く、26.7%となっており、前回の調査と比較すると「そのような人はいない」が増加している。</p> <p>・病気で数日寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人について、要支援認定者では、「そのような人はいない」が最も</p>	<p>・他者とのかわりが、前回の調査と比較すると、全体的に低下している。</p> <p>○高齢者が気軽に相談できるような地域づくり</p> <p>○助け合い活動の体制づくり</p> <p>○生活支援体制整備事業の互助の強化</p>

	多く、53.5%となっており、前回の調査と比較しても増加している。	
126P 128P	<p>(2) 相談相手や他者との関わりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族や友人・知人以外の相談相手について、一般高齢者では、「そのような人はいない」が最も多く、38.9%となっている。 ・要支援認定者では、「ケアマネジャー」が最も多く、50.2%となっている。 ・友人に会う頻度に関して、一般高齢者では、「年に何度かある」を「ほとんどない」を合わせると31.4%となっている。 ・要支援認定者では、「年に何度かある」「ほとんどない」が44.7%となる。 ・1か月間で会った友人・知人の人数についての質問では、一般高齢者では、「0人」と「1～2人」を合わせると36.6%となる。要支援認定者では、「0人」と「1～2人」を合わせると57.5%となる。 ・前回の調査と比較すると、一般高齢者では、5.8ポイント、要支援認定者では、13.3ポイント増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援認定者において、専門職が相談の受け皿として機能している反面、地域とのつながりが希薄化している傾向が見受けられる。 ○一般高齢者に対する相談窓口の普及啓発 ○関係機関との連携強化
130P	<p>(3) 地域の高齢者への手助けについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「できる範囲で手助けしたい」「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」「手助けしたいが、余裕がない」を合わせると、67.0%となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手助けしたいと思っている人は比較的多い。 ○社会参加が介護予防につながることへの理解の促進 ○助け合い活動の体制づくり ○生活支援と介護予防を通じた地域づくりの取り組みの推進 ○生活支援体制整備事業の互助の強化

問7 健康について

	結果の概要	傾向と課題
131P	<p>(1) 主観的健康感について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康状態をたずねたところ、一般高齢者では、「とてもよい」「まあよい」を合わせると、79.8%となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主観的健康感が「よい」と回答した人と主観的健康感が「幸せ」と回答した人を比較すると、主観的健康感が「幸せ」と回答した割合が高いことから、QOLが高い人が多

	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援認定者では、「とてもよい」「まあよい」を合わせると、48.6%となっている。 ・前回の調査と比較すると要支援認定者では、4.5ポイント減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> い。 ○社会参加が介護予防につながることへの理解の促進 ○生活支援と介護予防を通じた地域づくりの取り組みの推進
I32P	<p>(2) 主観的幸福感について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの程度幸せかをたずねたところ、一般高齢者では、「普通」「幸せ」「とても幸せ」を合わせると、93.5%となっている。 ・要支援認定者では、「普通」「幸せ」「とても幸せ」を合わせると、84.2%となっている。 	
I33P I34P	<p>(3) うつ傾向について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆううつな気持ちになることがあったかをたずねたところ、一般高齢者では、「はい」が43.0%となる。 ・「ゆううつな気持ちになることがあったか」と「物事に興味がわかないか」の2つの項目に関して、要支援認定者では、ともに「はい」が5割を超えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○うつ傾向にある高齢者の早期発見・早期診断
I37P I38P	<p>(4) 現在治療中・後遺症のある病気について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在治療中または後遺症のある病気を尋ねたところ、一般高齢者では、「高血圧」45.6%、「高脂血症(脂質異常)」16.8%、「糖尿病」と「目の病気」が16.0%、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」14.3%の順となっている。 ・要支援認定者では、「高血圧」52.3%、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」30.4%、「目の病気」26.6%、「心臓病」19.7%、「糖尿病」18.6%の順となっている。 ・前回の調査と比較すると、一般高齢者と要支援認定者ともに、「ない」が約5ポイント増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者、要支援認定者ともに、「高血圧」が多くなっている。 ・要支援認定者になると「骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」が増加してくる。 ・前回の調査と比較すると、治療中の疾患等が「ない」と答えた人が微増しており、健診等の未受診者が増えている可能性がある。 ○介護と医療の一体化事業の取り組みの推進 ○健康診査の受診勧奨(関係課との連携)

問8 認知症にかかる相談窓口の把握について

	結果の概要	傾向と課題
139P	<p>(1) 本人または家族の認知症の症状の有無について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「はい」が11.0%であり、前回の調査と比較すると、微増している。 ・要支援認定者では、「はい」が15.0%となっている。 	<p>○認知症についての普及啓発</p>
140P 141P	<p>(2) 認知症に関する窓口について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者、要支援認定者ともに、「いいえ」が約7割となっている。 ・知っている認知症の相談窓口について、一般高齢者、要支援認定者ともに、「医療機関等」が約6割、次いで「地域包括支援センター」が約5割の順になっている。 ・前回の調査と比較すると、「地域包括支援センター」が一般高齢者では、20.9ポイント、要支援認定者では10.9ポイント減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症相談窓口を知らない人が多い。 <p>○認知症相談窓口の周知</p>

問9 在宅医療・介護について

	結果の概要	傾向と課題
142P	<p>(1) 治療・ケアに関する家族間の相談の有無について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「はい」が23.0%、「ないが、必要はあると思う」が41.2%となっている。 ・要支援認定者では、「はい」が44.9%、「ないが、必要はあると思う」が29.4%となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・治療・ケアに関する家族間の相談について、一般高齢者、要支援認定者ともに、必要性を感じている人は多い。 <p>○在宅医療介護連携支援センター等との連携強化</p> <p>○ACPへの理解と周知</p>
143P	<p>(2) 治療・ケアに関する書面作成の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「作成していない」が85.3%、要支援認定者では、65.3%となっている。 	<p>○在宅医療介護連携支援センター等との連携強化</p> <p>○ACPへの理解と周知</p>

問10 介護・福祉サービスについて

	結果の概要	傾向と課題
144P	<p>(1) 介護予防事業の認知度について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」「知らなかった」を合わせると87.7%となっている。 ・要支援認定者では、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」「知らなかった」を合わせると77.8%となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防事業について、内容を理解していない人がほとんどである。 ○介護予防の普及啓発
145P	<p>(2) 介護予防の取り組みの重要性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「大切だと思う」が75.0%となっている。 ・要支援認定者では、「大切だと思う」が71.7%となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防の重要性は感じている ○介護予防事業の普及啓発
146P	<p>(3) 介護保険に対する評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「介護サービスの利用について、全体的に満足している」が一般高齢者では12.4%となっている。 ・要支援認定者では、60.9%となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険に対する満足度は高い。
147P	<p>(4) 将来の住まいと介護サービスの利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「介護になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が一般高齢者では、40.9%、要支援認定者では、46.1%となっている。 ・前回の調査と比較すると、「介護になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が要支援認定者では、5.6ポイント増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者、要支援認定者ともに、在宅で継続して生活したいと希望している。 ○在宅生活を継続するための適切な介護保険サービスの導入 ○医療、介護サービスを一体的・包括的に提供できる体制づくり ○介護する家族の負担軽減 ○地域資源の活用 ○安全と安心のまちづくりの提供
148P 149P	<p>(5) 高齢化社会において重要な方策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「健康づくりや介護予防」46.8%、「介護サービスの質の向上」36.7%、「介護サービス施設などの量的 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者、要支援認定者ともに、「健康づくりや介護予防」に対する意識が強い。 ○介護予防事業の普及啓発 ○生活支援体制整備事業の互助の強化

<p>充実」33.2%、「地域医療の充実」30.4%、「地域で支え合う体制の充実」23.6%の順となっている。</p> <p>・要支援認定者では、「介護サービスの質の向上」48.8%、「介護サービス施設などの量的充実」41.4%、「健康づくりや介護予防」40.1%、「地域で支え合う体制の充実」21.0%、「地域医療の充実」19.1%の順となっている。</p> <p>・一般高齢者では、前回の調査と比較すると「介護サービスの質の向上」が、8ポイント増加しており、要支援認定者では、「介護サービス施設などの量的充実」が5.6ポイント増加している。</p>	
--	--